学校だより：

岩中リポート

第１４号　令和２年６月５日（金）発行　発行責任者　校長　馬場廣明

待ちに待った部活動！練習を再開しました！！

６月１日（月）より部活動が再開されました。今週は１時間という短時間での活動となりましたが、生徒たちは久しぶりの練習に汗を流していました。しかし、今まで殆ど体を動かしていなかったことと思いますので、無理はしないようにしてください。なお、各顧問の先生方にも練習の仕方等について共通理解を図りました。また、今週は１年生については部活動見学週間でした。３年間続けられる魅力ある部活動は見つかりましたか。**どこの部活動も２、３年生の先輩方はとても優しく親切です。どの部活動に入部しても大丈夫ですので、保護者の皆様も安心してお任せください。**

（軽くノックを受ける野球部員）

（１年生の野球部見学、多いな～？）

（パス練習するサッカー部員）

（ラリーを続ける卓球部員）

（王者、バドミントン部は何を？）

（DVD 学習のソフトテニス部員）

前回の学校だよりでもご紹介しましたボランティア部員（クラブチームやスポ少所属）の生徒たちは、サッカー部に入りいっしょに練習している姿を目にしました。お互いにいい刺激になっているようで、より質の高い練習ができていることが確信できました。

また、部活動再開に伴い**生徒以上に顧問の先生方が生き生きしていました。**野球部を訪問すると、顧問の**石井徹弥先生（３年２組担任）**は久しぶりの練習に大きな声を出し、ニコニコとした満面な笑顔でノックしていたのがとても印象的でした。生徒と先生の姿を見て、部活動を行うことの教育的効果の大きさを改めて感じることができました。

朝の登校指導より

～ 本校生徒のすばらしさを発見しました！ ～

６月２日（火）の朝の登校指導時にすばらしい光景を目にしました。数名の男子生徒が歩道を自転車で登校してきました。そこに、生徒送迎の車が校門前で左折しようと一時停止し、男子生徒たちが通り過ぎるのを待っていました。集団の先頭にいた生徒が大きな声で「ありがとうございます。」と運転手の方に頭を下げ通り終えました。大きな声であいさつをしたその生徒は、**今井龍雅くん（２の２）**でした。当たり前の行動かもしれませんが、朝からとてもいい場面を見させていただきました。

「ある先生の毎日のある行動に」感謝です！！

毎日の登校指導の時間に、自転車置き場で生徒に「おはよう」「自転車きれいに並べてね」「忘れ物しないように」などと声かけをしている先生がいます。そして、生徒の登校後には、きれいに自転車を並べ、カギのかけ忘れや荷物の置き忘れなどないかを再確認します。その先生は**りんどう学級担任で、バドミントン部顧問の佐藤正英先生**です。交通安全の担当とはいえ、毎日の先生の行動には頭が下がります。また、佐藤先生は毎朝、クラスで作っている畑（トマト・キュウリ他）の苗への水やりも欠かさずに行っています。先生の行動は本当にすばらしく、なかなかできることではないと思います。

（「継続は力なり」何事も毎日の積み重ねが大事です。生徒の皆さんも家庭で何か１つあると良いですね。）

第１回校内授業研究会、音楽の授業が行われました。

６月３日（水）の５時間目に、２年２組の音楽の校内授業研究会が音楽室で行われました。今回の単元は**「箏の表現を味わいながら」**で、授業者は**関根美夏先生（２学年主任）**でした。私たち教職員は校内研修において、「主体的に学び、自己を表現できる」生徒を育成するための学習活動に重点を置いて授業実践を行い、教職員の授業力向上をめざしています。今回のコロナウイルスの影響により、まだ歌唱の部分には力を入れることができませんが、今できることを最大限に活かしたすばらしい授業でした。終始、生徒たちの前向きで意欲的な姿勢が見られました。また、なかなか普段の生活のなかで「箏を弾く」という場面はないと思います。生徒たちもとても貴重な体験ができたことと思います。

（日本古来の楽器「箏」、その良さを生徒一人ひとりが十分に味わい、奏でることができた授業でした。）

１年生、交通教室を行いました。「命は１つ」です！

６月４日（木）に１年生のみ、交通教室を行いました。例年であれば全校生徒が実施しなければならない教室ですが、臨時休業の影響から今年度は１年生のみの実施とさせていただきました。昼休み時間に自転車点検を行い、６校時目に校庭に特設コースを作り、自転車の正しい乗り方について実施しました。どの生徒も交通ルールを守り、きちんとした走行ができていました。昨年度は生徒の自転車事故が１件あったと記憶しています。軽傷で済みましたので安心しました。**親からもらった大切な命です、これからも大事にしましょうね。**朝の登校様子から、１年生もきちんと交通ルールを守り、安全な自転車運転ができていると思います。今後も油断することなく、交通事故０をめざして取り組んでいきましょう。